

保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会  
2018年度講演会

音次郎交流会

～ 音次郎と、私との出会い ～

日時： 2018年5月10日（木）14:00～16:00

場所： 四万十市立 中央公民館 大会議室（1階）



# ♪ 会 次 第 ♪

進行：瀧澤 勝  
(音次郎会事務局会計)

- 1 はじめのことば (山崎祥正 副会長)
- 2 会長挨拶 (浦田一雄 会長)
- 3 来賓祝辞 (中平正宏 四万十市市長)
- 4 佐竹音次郎の紹介
- 5 基調提案 「私の、音次郎との出会い」  
提案者 小椋茂昭 (音次郎会委員)
- 6 交流提案 「それぞれの音次郎との出会い」  
提案者① 浦田一雄 (同 会長)  
提案者② 中平菊美 (同 副会長)  
提案者③ 瀬戸雅弘 (同 事務局)  
進行役 山崎祥正 (音次郎会 副会長)  
「佐竹音次郎 福祉のこころ 宣言」
- 7 お知らせ (事務局 瀬戸雅弘)
- 8 閉会の辞 (中平菊美 副会長)

## ◆ 目次 ◆

提案者の紹介	2 p
佐竹音次郎の紹介	3 p
基調提案資料	5 p
写真資料	7 p
提案者③資料	12 p
会員募集、ホームページ紹介	14 p

主催 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会 (通称：音次郎会)  
後援 四万十市教育委員会

## ♪ 提案者人物紹介 ♪

### 基調提案者

おぐらしげあき  
**小椋茂昭**

1940(S15)年西土佐奥屋内生まれ。2000(H12).3～2016(H28).3まで若草園の運営法人である社会福祉法人栄光会の2代目理事長として勤務する。在任中、若草園創立55年記念事業を手がけ、その時に継続的研修事業の1本柱として保育の父・佐竹音次郎を取り上げ、その後の音次郎会の礎を築く。また40歳より35年にわたって民生委員児童委員を務め、高知県の連合会長としても6年働く。現在、花嫁衣裳のおぐら社長。社会法人幡多福祉会・幡多希望の家 理事長。音次郎会 委員。



### 提案者①

なかひらきくみ  
**中平菊美**

1950(S25)年旧十和村生まれ。2002(H14)～2006(H18)年竹島小学校に校長として赴任。総合学習で佐竹音次郎と出会う。それ以来、自主的に音次郎の資料を精力的に収集し、研究を深める。2011(H23)年大用小学校長を最後に定年退職。2013(H25)年栄光会の継続的研修事業の音次郎紹介冊子編纂実行委員に加わる。2014(H26)保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会準備会副会長に就任。現在、音次郎会副会長。



### 提案者②

うらたかずお  
**浦田一雄**

1952(S27)年旧中村市京町、佐竹音次郎が宮村家から養子に出された佐竹家のすぐ近所で生まれる。慶應義塾大学卒後渡米しアメリカ在住30年以上。退職後、郷里へ戻り四万十市有岡在住。現在、夫人と共に具同にてディナズ フレンズ英会話クラブを経営。音次郎会会長。



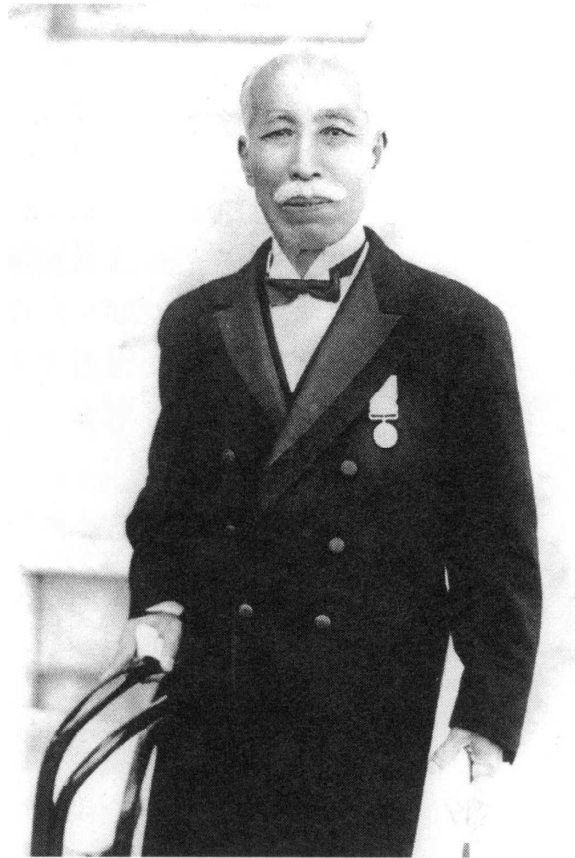
### 提案者③

せとまさひろ  
**瀬戸雅弘**

1966(S41)年京都府生まれ。1987(S62)年土佐清水キリスト教会で洗礼を受ける。音次郎の事はクリスチアンの立場として興味を持っている。2007(H19)から若草園に在職中。現在、日本キリスト改革派宿毛教会役員。音次郎会事務局。



→さらに詳しい情報は音次郎会の  
ホームページをご覧ください！



藍受褒章を授与された音次郎

保育の父

佐竹音次郎 <さたけ おとじろう>

元治元年 1864. 5. 10 土佐国幡多郡下田村竹島に出生

昭和15年 1940. 8. 16 神奈川県鎌倉市佐助にて永眠



## ♪ 佐竹音次郎の紹介 ♪

保育という言葉が初めて日本で使われたのは1896(明治29)年のことです。当時、子供を養育する施設は孤児院と呼ばれていました。しかし、佐竹音次郎はその言葉を嫌いました。音次郎は生みの子も育ての子も分け隔て無く愛育するという「聖愛一路」の理念のもと、全ての子どもは愛児であり、保んじて育つようにと小児保育院と名付けました。その意味は、「たとえ自分のような者であっても、私とその子の親となるのだから、もはやその子は孤児ではない」との、音次郎のあつい気持ちの表れでした。

### = 音次郎 経歴 =

1864(元治1)年、四万十市竹島に生まれ、地元の小学校教員を経て上京し、医学を志す。聖書を贈呈されたその頃からキリスト教に関心を持ち、のちに洗礼を受ける。1894(M27)年、神奈川県腰越で開業。下田から妻を迎え入れ、腰越医院に小児保育院を併設する。1905(M38)年、わが子らの死をきっかけに医業を廃して鎌倉小児保育園を設立して、児童養護に専念する。1913(大正2)年、中国に旅順支部を開設したのち、朝鮮、台湾にも事業を展開する。1920(T9)年、私財全部を提供して施設を財団法人化する。1940(昭和15)年、鎌倉の地にて永眠。1966(S41)年、音次郎の後継者が現在下田にある若草園を鎌倉保育園中村支部とし、29年6ヵ月その運営を支えた。

### ～音次郎年譜～

1864(元治1)年～ 旧下田村竹島に出生

地元の小学校教員を経て上京し、医学を志す。

1894(M27)年～ 神奈川県腰越で開業。鍋島出身の妻を迎え入れ、腰越医院に小児保育院を併設する。

1905(M38)年～ わが子らの死をきっかけに医業を廃して鎌倉小児保育園を設立して、児童養護に専念する。

1913(T 2)年～ 中国に旅順支部を開設したのち、朝鮮、台湾にも事業を展開する。

1920(T 9)年～ 私財全部を提供して施設を財団法人化する

1940(S15)年～ 鎌倉の地にて永眠

1966(S41)年～ 音次郎の後継者が現在下田にある若草園の運営を約 30年支えた。

2015(H27)年 生誕151年の日に郷土にて「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」が設立。

## 基調提案「私の、音次郎との出会い」 ～ 資料 ～

注記：「cf.7p」などの表示は「写真資料の5pに関連資料がある」との意味

### ☆ 自己紹介

1940(S15).4 西土佐村奥屋内にて8人兄弟姉妹の4番目として生まれる

1940(S15).8.16 音次郎没 人生が4ヵ月12日重なる

戦争を知る数少ない1人、B29の飛来を肉眼で見る

1946(S21)終戦の翌年 小学一年生（かばん・わら草履・みの・かさで通学）

診療所は大宮まで4時間～背中で冷たくなっていた長女

1955(S30)中学卒業、炭焼きと百姓に、小作は4：6、1年13ヵ月盆正月に利払い

牛の飼出し、子牛から役牛、差額は親分 プロパンの時代～木炭の検査員に  
育まれた地域交流＝回覧、夜とぎ、もらい風呂、夜学、生活記録、青年団、  
民主青年同盟、民主商工会など

1966(S41)26歳から中村での生活

### ☆ 若草園との出会い

1968(S43)佐岡橋左岸のガソリンスタンドで働く（集金係）

1957(S32)年、若草園が東山役場あとに開設されていた cf.7p

1969(S44)若草園の移転問題、30周年記念誌から読み取る当時の苦労 cf.7p

→月の友のリーダーから竹島地区への移転を猛反対していると聞く

西初代園長を知る人も少なくなった～らくだ色の毛布を買って頂いた

伊豆良子さん（若草園主任保育士、初期からの職員 cf.7p）大月出身、博愛園  
に就職。その後、若草園開設に向けて転勤、結婚。井沢地区でご近所であった。

### ☆ 佐竹音次郎との出会い

1988(S63)伊豆良子さんから若草園の西園長、職員、子供の様子を聞く。その中で「佐竹  
音次郎」の事を知る。 cf.8p

『若草園創立30周年記念誌』には伊豆さんの思いが生々しく、音次郎の事と合  
わせて記録されている。 ※『白き雲』（伊豆良子 遺詠追悼歌文集）にも収録されている。

あゆみ共同作業の活動を通して、渥美さんとの出会い

→そこでもまた音次郎の事を伺う

竹島小学校「開かれた学校づくり」の会の中で、竹島保育所の井上保母が「日  
本で初めて保育という言葉を使った佐竹音次郎の出身地・竹島で働けることを  
誇りに思う」との発言を聞く。

## ☆ 「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」の設立に向けて

2000(H12)社会福祉法人栄光会理事長に就任 cf.9p

若草園の歴代理事長

- ・宮村正明氏（幡多信用金庫理事長） ※正式な肩書きは鎌倉保育園中村支部長
- ・竹本治氏（病院長、西土佐出身で津大出身者にとって特別な存在） ※同上
- ・広井康延氏（校長先生） ※1996(H8)栄光会が発足し初代理事長に広井氏が就任

その後、無名の小椋が引き継ぐ

環境整備（くみ取り式トイレを水洗に、スチールサッシをアルミサッシへ、鬱蒼とした樹木をシルバー人材センターにて切り払い「海があった」と子供達）

施設長交代 若草園の集いを開催約100名参加

理事長として現場を知る方法として職員会への参加

職員が地域とつながるきっかけは子供の事でお店にお断りに行く時

2003(H15)園長と協議して若草園後援会を設置～のちに若草園を支える会へと発展

2005(H17)アドラムの家（小規模グループホーム）を教訓に小規模グループケアへと移行  
園舎建て替え、落成

2012(H24)慌ただしい理事長職を振り返り、就任来を振り返り「若草園創立55年記念事業」  
を理事会提案 cf.9p

記念式典、シンポジウム、祝賀会、記念誌発行

加えて「継続的研修事業」の立ち上げ。保育の父・佐竹音次郎を顕彰する活動。

2014(H26)「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ 講演会」をその手始めに開催 cf.10p

理事会での「講師は誰に？」との問いに、県民児連の活動を通じて交流のあった高知大学玉里教授を紹介

→社会学博士、限界集落の研究などの著書あり

竹島小学校を会場に個人的に200名を目標に取り組む→320名以上の参加 cf.11p

リーフレット『知っていますか？佐竹音次郎を』制作

音次郎「福祉のこころ」宣言 cf.添付様式

墓参、交流会、「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」へと続く cf.11p

竹島小学校児童の感想文～総合学習へと発展 cf.11p

この頃、中平元竹島校長とのつながり、西内育二郎元音次郎会副会長が『竹島の偉人』パンフレットを自費制作 cf.10p,13p

2015(H27)音次郎会設立 cf.12p 栄光会理事長は監事として関わるように引き継ぐ

2016(H28)高知大学で土佐の社会事業家に学ぶ研究会が発足（玉里教授主宰） cf.12p

2017(H29)栄光会理事長退任後、音次郎会では監事から委員になってして参与し続ける

## 写真資料



1957(S37)設立当初の若草園(佐岡、東山村役場跡)

若草園設立当初の職員5人 →  
(前列左: 西園長、後列右: 伊豆保育士)



1966(S41)鎌倉保育園中村支部となる若草園

1969(S43)下田に移転新築された若草園





## ふしどり先生

94

## 「保育園」の先駆者

## 佐竹 音次郎

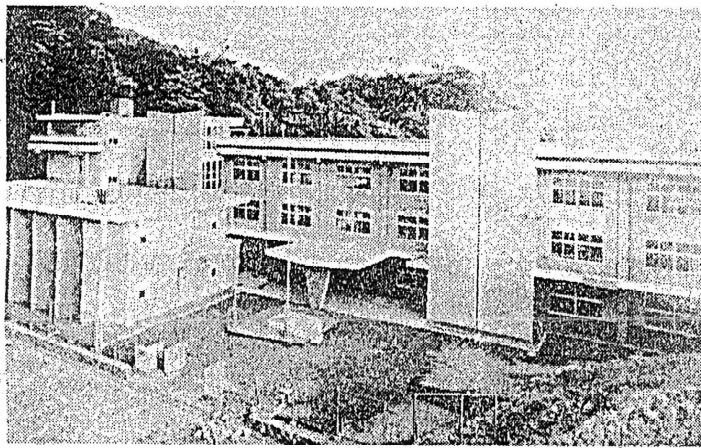


「保育園」。「保育園」一。今では何の違和感もなく使われている言葉だが、この「保育園」という言葉が、日本で初めて子供に保育施設に付けたのが中村出身の佐竹音次郎。また、「孤児院」という言い方しかなかった明治二十九年、今の神奈川県鎌倉市に「小児保育園」を創立、「私たち夫婦が親となって育てるのだから孤児ではない」と、あえて「孤児」の名称を避け、一心に子供たちに愛を注ぎ続けた保育事業の草分け。保育園という言葉が広く使われるようになったのはこれ以後、大正デモクラシーになってからのことである。

音次郎が現在の中村市竹島の農家の四男坊として生まれたのは、明治元年(一八六四年)。十八歳で下田小助手になり、その後上京。東鴨小校長を経て、明治法律学校(現明治大)に入学(中途退学)、やがて人命救護を自己の使命と決意して、湯島の医学専門学校済生学会に入っている。県立山梨病院に勤務した後、明治三十七年に鎌倉郡腰越村に「腰越医院」を開業した。

明治二十九年、今の神奈川県鎌倉市に「小児保育園」を創立、「私たち夫婦が親となって育てるのだから孤児ではない」と、あえて「孤児」の名称を避け、一心に子供たちに愛を注ぎ続けた保育事業の草分け。保育園という言葉が広く使われるようになったのはこれ以後、大正デモクラシーになってからのことである。

## 医業捨てて孤児院改革



だが、江戸島に近い貧しい漁村のこと。病弱で入退院を繰り返す子供たちが多く、音次郎が医院に引き取り、長期の世話をし始めるうち「あそこは身寄りのない子供の面倒を見てくれる」という評判が口コミで広がっていった。これが音

次郎の保育事業の最初。明治二十九年、彼は医院に「小児保育園」を併設。妻、熊手白らの子もほかの子供とわけ隔てなく育てるよう徹底した院母教育を施し院終りに臨むようになった。

十力を超えていたが、乳児はいったん里子に出して、五感になってから施設に預かるというのがそのころのやり方。「三歳までの環境が人間の基本的な性格をつくる」という現代心理学の考え方を先取りし、恵まれぬ子を乳幼児から預かるという音次郎のやり方はそのころの常識を破るものだった。しかも、預かった孤児に健康を害するほど厳しい行商をさせて収入を得るということが公然化していた風潮を嫌い、施設の子供たちに慈善事業を率先して指導した「小児保育園」は、内村鑑三の目にとまり、「万朝報」に大きく取り上げられることにもなった。

当然、音次郎の生活は苦しかった。国の補助制度も当時は貧困で、医業とのかけもちで体を悪くしていった。明治三十八年に流行した水痘で院内の子供三人死亡した。この中には愛する四女も含まれていた。「医師とのかけもちという中途半端がいけなかったのだ」と、どん底の悲しみに悩んだ音次郎は以後、腰越医院を廃業、翌三十九年鎌倉に移転して「鎌倉小児保育園」と改称した。やがて、旅順や京城などに支部を設け、精力的に事業を広げていった彼を支えたのは、生き方に共感した慈善書画会などからの寄付であり、内村から感化された博愛の精神であったという。

音次郎は、いわゆる孤児「国立孤児院」の設立を提唱した石井に「二日も早く孤児院の必要をなくしたい。国立施設の話をよく、孤児が社会から理解される社会づくりを」と食ってかかったが、当時まったくの無名だった音次郎。彼の、他に類を見ない進取の気性と、土佐人のいささう的な性格は、いわゆる主流に

## 人間離れした「愛の人」

父は人間離れした「愛の人」でした。他人のために尽くし続ける父に「お父さんのようにはなれない」と言ったら、「(優しく)時が与えられ」と言われたのを覚えています。母は医師の所へ嫁に来たつもりが、保育園の院母という大変な仕事を負われ、戸惑いが強かったようです。自分の子供もほかの子と同じに接するよう父に言われてましたから。私も施設の子供たちときょうだいのように一緒にご飯を食べて育ちました。厳しい父でしたが、いい父でした。

神奈川県鎌倉市佐助

佐竹 伸さん(五)

「音次郎の三女」

ただでなく、女子受刑者が出産した子供も引き受けるなど社会事業の幅を広げることに尽力したが、彼の名は日本の保育史の中で、その偉業ほどには扱われていない。

日本の保育史でまず登場する人物に岡山孤児院の石井十次がいるが、明治四十四年の全国孤児院会議で

現在、中村市下田にある福祉施設「若草園」は、音次郎の後を継いだ孫子、昇氏が経営難に陥っていたのを昭和四十一年に鎌倉保育園中村支部として再生したものである。

(幡多支社・山岡) 毎週火曜日掲載



1996年(平成8年)6月9日(日曜日)

児童福祉施設「若草園」

## 中村市に経営法人

130人が設立祝う



中村市下田の児童福祉施設「若草園」(青木浩園長、約三十人)を運営する社会福祉法人「栄光会」(広井康延理事長)の設立記念式が八日、同園で行われ、約百三十人が出席した。七年度まで、経営母体は日本の児童福祉の先駆者とされる同市出身の佐竹晋次郎(一八六四—一九四〇

年)が神奈川県に設立した社会福祉法人「鎌倉保育園」の中村支部だったが、地元に移管された。同園は昭和三十一年に高知慈善協会によって設立され、事故や災害など、何らかの理由で家族と暮らせなくなった子供たちが共同生活している。その後経営難に陥り、存続が危ぶまれた

ものの、四十一年、晋次郎の出身地だったことを縁に、鎌倉保育園が経営を受け継いだ。その後、より地域事情に即応した対応を目指して地元で独立法人を設立することになった。

式典では青木園長と栄光会の広井理事長が経緯を説明しながらあいさつし、鎌倉保育園の佐竹順理事長も「少子化や高齢化で施設を取り巻く状況が変化し、中村支部の独立で、地域の子供たちとより密接にかかわることができると。波乱の歴史があったが、今後とも温かい支援を」とはなむけの言葉を贈った。

その後、若草園の子供たちが取り組んでいる一条太鼓を披露し、新法人の船出を祝った。

(31) ☆☆ 地域 1 2012年(平成24年)8月9日(木曜日)

県内支社局 多社 幡支 08800343151  
08800310125

宿毛局 幡支 08800633000  
08800620000

水局 幡支 08800820113  
08800821349 川局 幡支 08800820101  
08800820660



## 幡多唯一の児童養護施設

## 若草園(四十市)が創立55周年

## 「人を愛せる子ども」育成

【幡多】四十市下田にある幡多地域唯一の児童養護施設「若草園」が、創立55周年を迎えた。少人数が独立して生活する「小舎制」を四国で初めて導入するなど、先駆的な取り組みを進め、約500人の子どもたちを送り出した。関係者は「育児放棄や児童虐待など多様化する子育ての課題にこたえてきた。これからも人を愛せる子どもたちを育てていきたい」と決意を新たにしている。

同園は1957年に同市左岡に開設し、69年に現在地へ移転。社会福祉法人「栄光会」の運営などにも参加している。

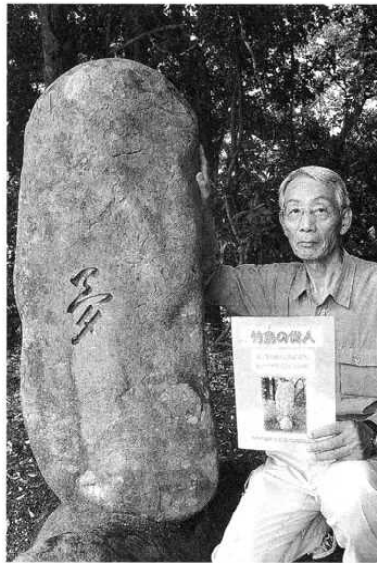
「55年間1日も休むことなく、職員が子どもを愛し、育ててきた」と同会の小椋茂昭理事長。近年は地域の祭りの運営などにも参加している。

同園で10日午後1時から、創立55周年記念式典とシンポジウム「若草園50年の分岐点」が、大舎から小舎へが開かれる。園生が作文朗読や歌唱を披露。国内の児童養護施設の関係者や卒園生の路上詩人「はまじ」さんらが今後の児童養護の在り方について議論する。問い合わせは同園(0880・333・0247)へ。



発行所 高知新聞社  
高知市本町3丁目2-15

## 児童福祉に尽力 佐竹音次郎知って



冊子を作製した西内育二郎さん。隣が佐竹音次郎の石碑  
(四万十市竹島)

地元男性が顕彰冊子  
四万十市

【幡多】児童福祉に尽力した四万十市出身の保育事業家、佐竹音次郎（1864～1940）の功績を知ってもらおうと、同市竹島の西内育三朗さん（65）がこのほど、顕彰冊子「竹島の偉人」を自费出版した。

音次郎は竹島の農家に生まれ、18歳で小学校助手になった後、上京。小學校長などを経て医師となり、1894年に神奈川県に小児科などの腰越医院を開業した。

96年に身寄りのない子どもたちを預かる「小児養育院」も併設。やがて、文獻や地元での聞き取りなどで音次郎の功績や足跡を調べた。

昨年からは「地元の偉人」をもっと知ってほしいと冊子の作製に着手。生家跡にある記念碑や辞世の句が刻まれた石碑など、地元に残る音次郎の足跡を調べた。

このほど市内の小中学校に冊子を寄贈した西内さんは、「子どもたちにも彼の人生や功績などから、何かを学んでほしい」と期待している。

冊子は希望者への無料配布が可能。申し込み問い合わせは西内さん（0880・33・1922）へ。

(楠瀬慶太)



2013(H25)小椋理事長と福留  
施設長による鎌倉訪問







佐竹音次郎をたたえる講演会を準備中の「栄光会」関係者ら(四万十市下田)

5月24日午後2時から、会場は音次郎の母校である竹島小学校。社会福祉に詳しい高知大学の玉里恵美子准教授が講演するほか、音次郎の理念や生涯を紹介するリーフレットも配布予定。  
定員200人で無料。問い合わせは若草園(0880・33・0247)へ。  
(新田祐也)

【幡多】「保育の父」と呼ばれた四万十市出身の保育事業家、佐竹音次郎(1864~1940年)の功績をたたえようと、同市内で児童養護施設を運営する社会福祉法人「栄光会」が、講演会の準備を進めている。  
音次郎は同市竹島生まれ。神奈川県鎌倉市に医院を開き、身寄りのない子どもを預かる「小児保育院」を1896(明治29)年に併設した。当時珍しかった乳幼児の受け入れ、児童施設に初めて「保育」の名称を取り入れるなど、先駆的な運営で保育事業に生涯を

## 保育の父 佐竹音次郎知って

ささげた。

### 四万十市の福祉法人企画 5月 母校・竹島小で講演会

栄光会が運営する四万十市下田の児童養護施設「若草園」は1957年、別の社会福祉法人が同市佐岡に開設したが、やがて経営難に。当時の園長が、「一保育院」が発展した「鎌倉保育園」の関連施設で働いていた縁などから、若草園は66年、運営が同保育園側に移管され「鎌倉保育園中村支部若草園」となった。  
96年には栄光会が設立され若草園も「独立」したが、同会は「30年の恩は計りれない。顕彰活動が始まるきっかけに」(小椋茂昭理事長)と講演会を企画した。

## 「保育の父」に学ぶ 四万十市 佐竹音次郎知る講演会

地域福祉が専門の玉里恵美子・高知大学教授が音次郎の生い立ちや業績を紹介。音次郎は1896(明治29年)、鎌倉市に設けた児童施設の名称「小児保育院」に日本で初めて「保育」という言葉を使い、当時一般的だった「孤児院」の名を嫌ったという。玉里教授は「音次郎は『私が引き取り、親となつたのだから、この子たちは孤児ではない』と考えた」と解説した。  
また、子どもたちの写真を「家族写真」と呼んでいたなど、音次郎の分け隔てない教育方針と愛情を示すエピソードを披露した。

講演後はゆかりの石碑巡りもあり、参加者は墓前で礼拝して音次郎をしのんだ。  
(大野耕一郎)

【幡多】四万十市出身の児童福祉事業家、佐竹音次郎(1864~1940年)を顕彰する講演会「保育の父・佐竹音次郎にまなぶ」が24日、音次郎の母校、竹島小学校(同市竹島)で開かれ、約300人が音次郎が保育にかけた思いについて耳を傾けた。  
今年は音次郎の生誕150年に当たり、同市の児童養護施設「若草園」が96年までの30年間、音次郎が創設した施設の支部だったことから、同園を運営する社会福祉法人「栄光会」が開催。同小の5、6年生や関係在任の音次郎の親族らも参加した。



玉里恵美子教授が佐竹音次郎の生涯について語った講演会(四万十市の竹島小学校)

## 四万十市 こども新聞

ふれあい高新 in 四万十市

### 地域の誇り 佐竹音次郎 竹島小

私たちの竹島小学校の校区には、偉大な先輩として名前が知られる人が住んでいました。その人の名前は「佐竹音次郎」＝写真上＝といいます。  
今年5月、私たちの学校の体育館で大勢の人たちが集まって、「保育の父・佐竹音次郎にまなぶ」という演題で講演会が開かれました。私たち6年生も全員が参加して、講演を聞きました。  
その講演の話からいろいろなことを知りました。

佐竹音次郎さんは、1864年5月10日、幡多郡下田村竹島の宮村源左衛門の四男として生まれました。32歳の時に沖本熊子さんと結婚し、1906年に神奈川県鎌倉市に保育園を建設し、恵まれない子どもたちをわが子として育てたそうです。

1940年8月16日に76歳で亡くなるまでに、全部で6カ所の保育園を作り、5571人の子どもを育てたそうです。とても勉強が好きで、親に止められても勉強はげんだといわれています。また、とても優しい人で、与えられたことをしっかりとやりとげる強い信念を持った人だったそうです。

それから、私たち6年生は、校区の井沢地区に住んでいる小椋茂昭さんから、あらためて音次郎さんの話を聞くことができました。写真下。その中で、竹島神社と集会所、国道に隣接のある石碑などが残されているというのを知りました。

すいぶん昔に生まれた人ですが、その生き方を学ぶことで、音次郎さんは私たち地域の誇りであり、人間愛に満ちた素晴らしい人物だったのだと強く感じました。  
これまで私たちの学校を卒業していった先輩たちがまごめた資料も残されているそうなので、さらにくわしく調べ、その思いや願い、ものの考えなどについて学んでいきたいと思っています。そして、そのことを地域の人たちに伝えることで、音次郎さんにもっともっと関心を持ってもらいたいと思っています。



(6年、大沢一輝、山下昇大、南雲龍ノ介、弘内聡、加用洗也、沖海斗、加用菜葉、西内夏希、西内美優希、西内菜那)



市民有志が立ち上げた「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」の設立総会  
(四万十市右山五月町)



【幡多】四万十市出身の保育事業家、佐竹音次郎(1864-1940)の生誕151年

## 「保育の父」思い後世に 佐竹音次郎に学ぶ会発足

四万十市

に当たる10日、その思いを引き継ぐと、市民有志らが「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」を立ち上げた。四万十市立中央公民館で開かれた設立総会では、活動方針を発表。音次郎の活躍ぶりを伝える記念講演も行われた。

音次郎は同市竹島生まれ。神奈川県鎌倉市に医院を開き、身寄りのない子どもを預かる「小児保育園」を1896年に併設した。児童施設に初めて「保育」の名称を使うなど、先駆的な運営で保育事業をリードした。

「学ぶ会」は音次郎の功績を知ってもらおうと、四万十市の社会福祉法人「栄光会」が中心となつて準備を進めてきた。

総会には市民ら約90人が出席。会長に就いた山崎祥正さん(64)は「音次郎が大事にした福祉の心を学びたい」とあいさつした。今後の活動について、機関誌の発行などで音次郎の生涯を伝えていくとした。

最後に竹島小学校の元校長、中平菊美さん(64)が講演。大正や昭和の時代に、音次郎が中国や台湾にも児童施設を開設したことを紹介し、「音次郎の功績は地元の人でさえ知らない人が多い。思いやりで満ちた彼の生き方を

(第3種郵便物認可)

2018年(平成30年)4月15日(日曜日) 地域 2 ☆☆ (26)

## 「木浦の母」と「保育の父」 古里、人への愛は共通

四万十市

### 田内基さん 音次郎の墓へ



地元メンバーとともに佐竹音次郎の墓を訪れた田内基さん(中央)(四万十市竹島)

【幡多】韓国で多くの孤児を育てた「木浦の母」田内千鶴さんが、高知市出身の長男、田内基さん(75)が13日、「保育の父」佐竹音次郎の出身地、四万十市竹島を訪れた。音次郎の顕彰活動に取り組む地元メンバーらと交流し、児童福祉の精神などを語り合った。基さんは口韓交流に携わりつつ、西国で福祉施設の運営などに尽力。医師だった音次郎は約100年前、身寄りのない子どもを預かる小児保育園を神奈川県鎌倉市に生家、辞世の句を刻ん

だ碑などを視察。音次郎には鎌倉に立派な墓があるが、小さくてもいいから父母の側で眠

りたいと願ったため、竹島にも墓がある」といった説明に聞き入っていた。

基さんは「母は海に向こうに高知があると云っていた。古里を愛し人間を愛する心は音次郎とも相通じる。福祉は地元の理解と支援が大切。こちらの人々の素朴さに触れ、私も学ばねばと貴重な時間になった」と語った。

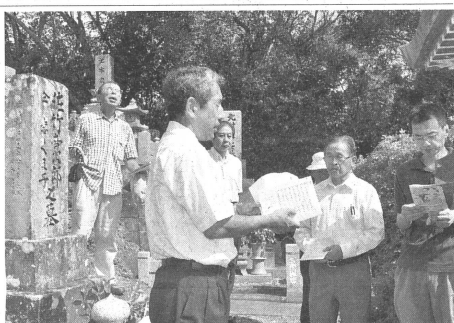
「学ぶ会」の浦田一雄会長(65)は「子どもを愛する2人の心は古里の風土に育まれたのだと感じた。われわれの使命として音次郎の精神を伝えていきたい」と、活動の拡充に意欲をみせていた。

(兵等 剛)

2017.8.17 Wed

保育事業に尽力  
佐竹音次郎しのぶ  
四万十市で墓前礼拝  
【幡多】四万十市出身で保育事業に力を注いだ佐竹音次郎の墓前礼拝が16日、同市竹島で行われ、没後77年がたつ故人の歩みをしのんだ。市民らでつくる「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」(浦田一雄会長)が主催した。

医師だった音次郎は神奈川県鎌倉市に保育園を開き、身寄りのない子どもを受け入れた。1940年に鎌倉



佐竹音次郎の墓(左)の前で賛美歌を歌う参列者(四万十市竹島)

で埋葬されたが、本人も分骨されていた。牧師の司会で、参列者が墓の前で賛美歌を歌い、多くの子どもを育てた生涯を思つて祈りをささげた。

学習会もあり、元竹島小学校校長の中平菊美さん(66)が音次郎関連の碑を紹介。地元には辞世の句や「夢」の一文を刻んだ碑が残るが、制作のいきさつを記した資料がほとんどないことから「余分なことが飾りがないのが碑の特徴。どういったで作ったのか、もっと勉強していきたい」と話し、さらなる研究を呼び掛けた。

(早川 健)



## 提案者③資料

西内育二郎元副会長（2017.4.4在任中に逝去）は竹島出身で2013年から栄光会の継続的研修事業に関わる。2015年に保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会が発足し、副会長に就任。音次郎の歌を制作する提案をしたり、新聞の投稿欄へ寄稿したり、音次郎会の広報活動に尽力された。西内氏が2012年に自費出版された『竹島の偉人』は音次郎会発足のきっかけとなったと言っても過言ではない。

自分史制作のため竹島墓地に訪れた際、旧竹島神社に『夢』とだけ刻まれたふしぎな石碑を発見したことが西内氏の音次郎研究のすべての始まりとなる。2008年頃から若草園通い、音次郎の資料を借りだし、地道な研究が続いた。このリーフレット完成は8pにある高知新聞記事や、四万十市広報においても紹介された。

音次郎が郷里に設置した石碑が3つある。墓石、辞世の句碑、夢の碑。この3つはその置かれた場所でひっそりと音次郎を物語っている。それは、もしかしたら福祉という地味な分野でその石自体が雄弁に音次郎を、いや、彼の「こころ」を物語っているのではないか。

音次郎が遺し、育二郎さんが遺してくれたその音次郎の魅力を、私も引き継ぎたい。

瀬戸雅弘





# お知らせ

四万十市竹島出身・郷土の偉人

最終更新：2018.5.3 Thu

## 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会

佐竹音次郎の紹介	
経過報告	
活動報告	
入会案内／会則	
事業活動計画	
役員名簿	
過去の講演会	
メールマガジン	

**事務局**

四万十市立中央公民館内  
「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」

**連絡先**

〒787-0155  
高知県四万十市下田2211  
若草園内

TEL 0880-33-0247

「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」ホームページへようこそ！

「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」は日本ではじめて「保育」と言う言葉を使った、まだ余り知られていない偉人を研究して福祉の心を学ぶ任意の団体です。

**NEWS!**

1. 「保育の父」と「木浦の母」交流会の様子を掲載しました（→活動報告）。
2. 2018年度定期総会を開催しました（→活動報告）。
3. 2018年度の音次郎会講演会「音次郎交流会」の案内を掲載しました（↓）。

「音次郎交流会」  
5月10日（木曜日）14時～  
四万十市立中央公民館 1階大会議室



**「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」主催  
音次郎交流会  
～音次郎と、私との出会い～**

と き 2018年5月10日（木）  
14:00～16:00  
ばしょ 四万十市立 中央公民館 大会議室

——154年前、佐竹音次郎は現在の四万十市竹島に生まれました。男は明治維新。この種多地域でも新しい道を切り開こうとする人達はたくさんいました。音次郎はその活躍を見ながら育ち、やがて日本で初めて保育園を設立しました。現在「志田高知 幕末維新博」が開催されておりますが、音次郎会でもこの機会に「保育の父の故郷」をアピールしたいと考えています。ぜひこの機会に音次郎会へ参加してください。

○音次郎会ではあたらしい会員、メールマガジンの購読者を募集しています。

○また、ホームページでは随時「保育の父・佐竹音次郎」の情報を掲載しております。

アドレスは、「<http://otojiro.link>」です。「保育の父」で検索するとすぐにたどり着けます。

○入会申し込み、音次郎会へのメールはホームページから出来るようになっています。

### ◆今後の定例会開催日程／2018(H30)

6月 9日(土) 定例会	14～16時	公民館 3階 研修室 3
8月 16日(木) 没後78年墓前祭	9～12時	竹島防災センター集合／竹島墓地
10月 13日(土) 定例会	14～16時	若草園
12月 8日(土) 定例会	14～16時	竹島防災センター
2月 9日(土) 定例会	14～16時	公民館 3階 研修室 3

ホームページ



# ♪ 音 次 郎 会

2018

メール

